作成日：2004/04/06
改訂日：2024/03/15

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名　：　ペルオキソ二硫酸ナトリウム

会社情報

会社名　：　関東化学株式会社
住　所　：　〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門　：　試薬事業本部　企画管理部　資料課
電話番号　：　(0120)260-489
ＦＡＸ番号　：　(03)3241-1047
メールアドレス　：　BC32@kanto.co.jp

整理番号　：　38117
推奨用途　：　試験研究用
使用上の制限　：　推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	酸化性固体	区分 3
健康有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	呼吸器感作性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2（全身毒性）
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）

絵表示



注意喚起語　：　危険

危険有害性情報　：　火災助長のおそれ：酸化性物質
飲み込むと有害
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
臓器の障害のおそれ（全身毒性）

注意書き

安全対策　：　熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
衣類及び可燃物から遠ざけること。
粉じんを吸入しないこと。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。

応急措置 : 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

廃棄 : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 物質

別名 : 過硫酸ナトリウム

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
ペルオキソ二硫酸ナトリウム	≥ 98	Na2S208	1-1131	既存化学物質	7775-27-1

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。

皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。

眼に入った場合 : 直ちに流水で十分に洗い流す。

飲み込んだ場合 : 直ちに水または食塩水を飲ませて吐かせる。患者に意識がない場合には、口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。速やかに医師の処置を受ける。

応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 : 吸入すると、咳、息苦しさ、咽頭痛、喘鳴を起こす。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。

使ってはならない消火剤 : 特になし

火災危険性 : 可燃性材料と接触すると火災を起すことがある。
加熱すると分解して、酸素を生成して火災の危険性を増大させる。

消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。

消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものなどが皮膚に付着した

り、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 ： 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 ： 飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。飛散した場所は水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策 ： 有機物、可燃物と接触させない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 ： 皮膚に付けたり、粉塵を吸入しないように必要に応じて適切な保護具を着用する。

安全取扱注意事項 ： みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。
酸化性物質であるため、有機物などと接触しないように取扱う。

保管

安全な保管条件 ： 容器は密栓して冷暗所に保管する。
可燃物と隔離して貯蔵する。

安全な容器包装材料 ： ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	設定されていない
ACGIH TWA	0.1 mg/m³（過硫酸塩として）

設備対策 ： 粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具 ： 防じんマスク

手の保護具 ： 不浸透性保護手袋

眼の保護具 ： ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 ： 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 ： 固体

色 ： 白色 - 淡黄色

臭い ： 無臭

pH ： 酸性

融点 ： 180 ° C（分解）

凝固点 ： データなし

沸点 ： 分解

引火点 ： データなし

自然発火点 ： データなし

分解温度 ： データなし

可燃性	:	不燃性
蒸気圧	:	データなし
相対密度	:	データなし
密度	:	2 g/cm³
相対ガス密度	:	データなし
溶解度	:	水: 可溶。
n-オクタノール/水分配係数（log Pow）	:	データなし
爆発限界（vol %）	:	データなし
動粘性率	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	強い酸化性を有する。
化学的安定性	:	通常条件で安定である。
危険有害反応可能性	:	アルミニウム、アルミニウム酸化物、無水酢酸と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	:	日光、熱。
混触危険物質	:	可燃性物質、還元性物質。
危険有害な分解生成物	:	硫黄酸化物。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	:	飲み込むと有害 ラット LD50=895 mg/kg
急性毒性（経皮）	:	区分に該当しない ウサギ LD50>10000 mg/kg
急性毒性（吸入）	:	区分に該当しない（気体） 区分に該当しない（蒸気） 区分に該当しない（粉じん、ミスト） ラット LC50>5.1 mg/L/4h
皮膚腐食性／刺激性	:	区分に該当しない ウサギに本物質を 4 時間適用した皮膚刺激性試験において、紅斑及び浮腫の平均スコアは 0 であり刺激性なしと判断されている。以上より、区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	:	区分に該当しない ウサギを用いた眼刺激性試験において、虹彩炎、角膜炎、結膜炎の平均スコアは全て 0 であり、刺激性なしと判断されている。以上より、区分に該当しない。
呼吸器感作性	:	吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ ヒトで吸入暴露により喘息症状が誘発されたとの症例報告がある。以上より、区分 1 とした。
皮膚感作性	:	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ モルモットを用いた感作性試験では、感作誘導後、皮内注射による感作誘発に対しては陽性、表皮適用による感作誘発に対しては陰性の結果が得られてい る。ヒトにおいては、パッチテストの結果で感作性なしとの結果と、感作性を示唆する報告の両方がある。陰性と陽性の結果両方があるものの、ヒト及び動物で陽性の結果が得られており、区分 1 とした。
生殖細胞変異原性	:	区分に該当しない In vivo では、マウスの小核試験、ラットの不定期 DNA 合成試験で陰性、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、ラット肝培養細胞の不定期 DNA 合成試験で陰性である。
発がん性	:	分類できない

生殖毒性	:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:	臓器の障害のおそれ（全身毒性） 呼吸器への刺激のおそれ 本物質は気道刺激性がある。ヒトでは複数の事例があるが、分類に利用できるデータはない。実験動物では、ラットの吸入ばく露で呼吸困難、呼吸障害、鼻腔からの鼻汁、ラットの経口投与で鼻腔の分泌物、不規則呼吸、鎮静、運動失調、呼吸困難、下痢、筋肉の緊張低下、散瞳が報告されている。なお、ラットの経口投与の知見は、区分２に相当する濃度の範囲でみられた。以上より、区分２（全身毒性）、区分３（気道刺激性）とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:	分類できない
誤えん有害性	:	分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性　短期（急性）	:	区分に該当しない 魚類(メダカ) LC50>100 mg/L/96h
水生環境有害性　長期（慢性）	:	区分に該当しない 藻類(ムレミカヅキモ) NOEC=3.2 mg/L/72h

残留性・分解性

追加情報なし

生体蓄積性

追加情報なし

土壌中の移動性

追加情報なし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性	:	分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	3%程度の水溶液を調整し、注意しながら硫酸で pH2 まで酸性化する。室温下に攪拌しながら、酸性亜硫酸ナトリウム水溶液を徐々に添加する。反応により温度が上昇することがある。上澄液は pH を中性に調整して廃棄する。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
汚染容器及び包装	:	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

国連番号（IMDG）	:	1505
正式品名（IMDG）	:	SODIUM PERSULPHATE
容器等級(IMDG)	:	III
輸送危険物分類（IMDG）	:	5.1

航空輸送(IATA)

国連番号（IATA）	:	1505
正式品名（IATA）	:	Sodium persulphate
容器等級（IATA）	:	III
輸送危険物分類（IATA）	:	5.1
海洋汚染物質	:	非該当

国内規制

陸上規制	：	消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
海上規制情報	：	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	：	航空法の規定に従う。
その他の情報	：	補足情報なし
緊急時応急措置指針番号	：	140

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 ： 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第１号～第２号別表第９）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第１号～第２号別表第９）
ペルオキソ二硫酸ナトリウム （政令番号 ： 529）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２）（2025 年 4 月 1 日以降）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２）（2025 年 4 月 1 日以降）
ペルオキソ二硫酸ナトリウム
皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（安衛則第５９４条の２第１項、令和４年５月３１日基発０５３１第９号、令和５年７月４日基発０７０４第１号・５該当物質の一覧）

毒物及び劇物取締法 ： 非該当

船舶安全法 ： 酸化性物質類・酸化性物質（危規則第２，３条危険物告示別表第１）

航空法 ： 酸化性物質類・酸化性物質（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）

港則法 ： その他の危険物・酸化性物質類（酸化性物質）（法第２１条第２項、規則第１２条、危険物の種類を定める告示別表）

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) ： 第１種指定化学物質（法第２条第２項、施行令第１条別表第１）
ペルオキソ二硫酸の水溶性塩（管理番号 ： 395）(100%)

16. その他の情報

参考文献 ： 化学大辞典　共立出版社（1963）。
17322 の化学商品、化学工業日報社（2022）。
NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP)、独立行政法人製品評価技術基盤機構。

＊この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。
この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。